

施策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	--
基本事業：	01	文化財の保護	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	市内の文化財指定件数（累計）		担当課	文化財課
			担当係	保存活用担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
国指定史跡をはじめとする被災文化財			平成30年7月豪雨により、指定史跡（国史跡阿志岐山城跡、特別基肄城跡）の各所で土砂崩れ、倒木などの甚大な被害が発生しました。二次災害や時間の経過に伴い破損が拡大することにより当該文化財の歴史的・学術的価値を損なう恐れがあり、文化財の保存ができなくなることから、早急な復旧対応を行います。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			【補助金】 国（文化庁） 歴史活き活き！史跡等総合活用整備補助金（災害 補助率70%） 福岡県 文化財保護事業補助金（災害 補助率12%）						
被災箇所の復旧を行い、文化財を適切に保存し、後世に伝えます。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	01年度 実績	02年度 実績	03年度 当初	04年度 要求	05年度 計画	06年度 計画	目標
市内の文化財指定件数		件	39	39		0			
						0			
5. コスト									
事業費		計	千円	50,733	11,626				
		国	千円	35,513	8,137				
		県	千円	6,087	1,395				
		地方債	千円		0				
		その他 一般	千円	9,133	2,094				
正職員人工数		人工	1	2	0				
正職員人件費		千円	8,065	16,058	0				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	58,798	27,684	0				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている		< 状況 > 国史跡阿志岐山城跡、特別史跡基肄城跡の全ての災害復旧が完了し、被害の拡大を防ぐ保全が図られました。							
どちらかといえばあがっている		< 課題 > 近年、記録的な集中豪雨の発生が続き、今後も史跡の被災が懸念されます。							
あがっていない（停滞・低下）									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	増加	類似事業	なし	< 状況 > < 原因 > < 課題 >					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
史跡地内の広域な範囲に災害が及ぶことや地権者との協議に不測の日数を要したことから、複数年にわたって事業を実施しました。					備考・特記事項 or 進行管理欄				
令和元年度に国史跡阿志岐山城跡、令和2年度に特別史跡基肄城跡の災害復旧を終え、被災した遺跡の復旧が完了しました。									